

市埋蔵文化財センター
 ☎ 23-8020
 26
ドキドキ
たいむとらべらー



花よりだんごより

桜の便りが二戸にも届き始めて来ましたが、春はおしゃれをして、出かけたくなる季節ですね。以前、縄文人がおしゃれだったというお話をしました。では、九戸政実がこの地を治めていた戦国時代、テレビや小説などでよく見かけるのは、甲冑かちうを身にまとった勇ましい武将の姿ですが、当時の女性はどのような服装だったのでしょうか。

当時着ていたのは「小袖こそで」と呼ばれる着物です。小袖は、現在の着物よりも袖口の部分が小さく、筒状になっていました。もとは下着で、平安時代の女性達が着た、十二単の中に着られていました。

武家の女性は、小袖を重ね着して袴はく小袖袴が主流でした。しかし、戦国時代の後期になると、袴も省かれ、小袖

を着て帯を締め、その上からまた小袖を重ねる打掛け姿が主流となりました。

戦国時代の小袖は、小派手な柄で大膽なデザインなのが特徴です。「肩形式かたけいしき」や「肩裾形式かたすそけいしき」と呼ばれるものは、肩部分または肩部分と裾のみに模様をほどこし、他の部分は無地にする、この時代の代表的なデザインです。また、一着の小袖を作るのに、二種類以上の異なる生地をつなぎ合わせて仕立てるデザインもありました。右身頃と左身頃で別の生地を使って仕立てたものは「片身替わり」といい、左右だけでなく、上下の生地も替えて仕立てたものを「四替わり」、さらに細かく「八替わり」「十六替わり」：などなど、今の着物からは想像できないような、斬新な着物を好んでいたのです。

戦国時代の女性も、流行のデザインを身にまとい、お花見に出かけていたのでしょう。きっと現代と変わらず、花よりも、着飾った女性が主役だったに違いありません。



今よりもずっと斬新なデザインですね

こみやてaたいむ

35期目

「宝」の情報をお寄せください

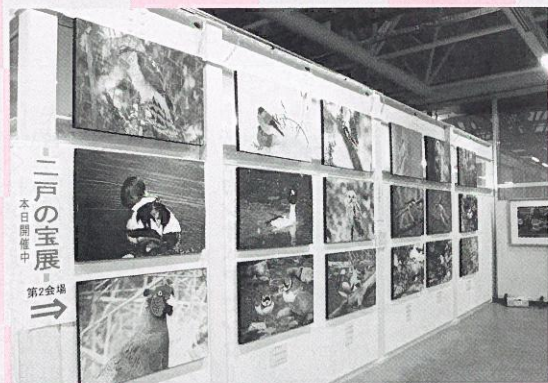
楽しく美しいまちづくり協議会（佐藤悦郎会長）は、昨年の5月に、本市の自然、歴史、文化などの宝を活用し守る取組みを推進するために設立されました。

協議会には、3人の調査員がおり、市内の自然、民俗、建造物を中心に宝の調査を行っております。

昨年度は、調査した宝を活用して、自然観察会や福岡町の歴史や文化に触れるツアー、本市の宝を紹介する展示会などを開催し、宝を生かした取組みを行っております。

今年度も4月から5月にかけて、「瀬戸内寂聴さんの色紙展」や「福岡街なか散歩」、「オシドリ観察会」など、本市の宝を生かした活動を行います。また、地域団体と連携した宝を生かす取組みも考えております。

今後、このような取組みを進めて、市民が慣れ親しみ、誇りとして守ってきた「宝」を活用して「エコツーリズム」を促進してまいりますので、皆様のご意見や情報をお寄せください。



「二戸の宝展」の様子



まちの魅力を再確認する「福岡街なか散歩」

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課（内線 655）まで